

研修報告 D班1グループ TEAM アグレッシブ

<研修内容>

講師の方々から情報提供を聞き、各自がどんなことを気づいたのか、自大学の問題や課題点、また現在導入しているシステムなどについて情報共有した上で、議論を展開した。その議論から、大学の役割、現状、問題や課題点を整理し、その解決策を探りながら討議を進めた――。

<大学の役割>

テーマ設定の前段階として、本来大学とは社会的にどのような役割であるのかということを中心に共通認識を図ることにした。その代表的な意見としては、

①人材輩出(就職予備校) ②学びの拠点 ③社会貢献の場 ④研究の場
などの意見が挙げられた。

別のキーワードとして、社会人基礎力の養成、自主性、コミュニケーション力、地域貢献、生涯学習、という字句についても、挙げられた。

その中で、D-1班としては、現在大学として最も必要とされていると思われる「①人材輩出(就職予備校)」を掘り下げ、**ディプロマポリシーに見合った人材を輩出する**、という部分に重点を置いた。

<大学の現状>

ディプロマポリシーに見合った人材を輩出する、ということが大学の役割であるが、現在大学がおかれている実状は、ディプロマポリシーに見合った活動が行っていないのではないかと認識に至った。代表的な例を挙げると、

- ・同名の開講科目でも、担当教員が異なると授業内容が統一化されていない
- ・事前に学生に提示されているシラバス内容と実際行われている授業内容との乖離
- ・授業の到達目標と、実際の授業理解度とのギャップ
- ・毎年、使い回されている学生への配付資料や試験問題 etc...
- ・就職セミナーなど学生にとって魅力あるものを開催したとしても、開催しただけで満足・完結している

主に授業やセミナー等のイベントに疑問を感じている。学生と教職員の双方の行動や考えが噛み合っていない。つまり、**学生や教職員、社会のニーズを汲み取れていない(汲み取る仕組みがない)**、**汲み取れてもフィードバックができていないのが現状**である。

この現状を、大学職員が主体となって解決に取り組む必要があると考える。

D-1班は、その中の学内のニーズに焦点を絞り、

テーマを、**【”納得のいく”授業評価アンケートを作ろう】**に設定した。

授業改善を目的とした授業評価アンケートを中心に、現在、学生や教職員が求めているニーズを迅速に汲み取り、その内容を掘り起こし、フィードバックする仕組み作りについて、討議を進めた。

各大学で実施されている授業評価アンケートについては、アンケートを実施するという仕組みがあるだけで、実施しただけで終わってしまっている。その要因として、

- ・現在進行形の学生には、メリットが薄い

- ・悪い評価を受けた教員に不満を持たれてしまう
- ・中長期的な改善に留まってしまっている(1,2年生や今後入学してくる未来の学生のため)

「今」の学生に変化がなければ、学生はアンケートの実施に意欲・主体的に取り組まず、教員側としてもアンケートを実施しただけで終わってしまう。さらに、学内全体に授業評価アンケートの重要性について理解をさせた上で、改善に取り組む必要がある。

<現状の解決策>

■大学として取り組むこと

授業期間中に複数回のアンケートを実施&その都度、フィードバックする
アンケートの100%実施と、全ての授業評価結果を一般向けに広く公開を図る

■教員の取り組むこと

具体的な授業改善案の提示と授業後の再点検 ⇒次年度授業への反映
教員自身で授業の到達度目標を設定

■職員の取り組むこと

- ・学生にアンケートの主旨を理解させる(新入生ガイダンス等で告知)
- ・教員に、自由設問欄をもっと活用させる(授業の目的・教員の意図)
例) 授業形態による設問の応用を促す(講義形式、演習形式、実験・実習形式、学生参加形式 etc…)
- ・アンケート結果を統計・数理的に処理をし、教員に個別に説明。
⇒改善点を前向きなコメントとして提示する

<まとめ>

授業アンケートをより有効的に活用するために…

- ★アンケートの授業期間中の複数回の実施とフィードバックを行う
- ★教員への自由設問の積極的な運用を促す
- ★前向きなコメント・改善案を教員にフィードバックする
- ★教員による授業の目標設定と、学生アンケート結果による事後評価のすり合わせを行う
⇒双方のギャップを、教員が納得の上で認識・改善できる

★模試の結果票のように、継続的・発展的な改善が実現できると良い